

## ■学校経営のポイント

### 「令和の日本型学校教育」の実現に向けて

小島 宏

本年1月26日に中教審は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」を答申した。これを受けて、学校はどう対応すべきか、「子どもの学び」と「教職員の姿」に焦点化して考えることにする。

#### 日本型学校教育のよさの確認

日本の学校は、知・徳・体を一体的に育み、子どもに一定水準の教育を保障する平等性や全人教育で成果を上げ、諸外国からも高く評価されている。

これに自信をもち、その上で課題と新規導入について検討し、一層の充実・発展に努めたい。

#### 個に応じた指導の充実

個に応じた指導を充実し、従来の学校の強みである学習機会と学力の保障、全人的な発達・成長の保障、居場所・セーフティネットとしての福祉的役割を今後もよりよく継続していく必要がある。

そこで、全ての子どもに基礎的な知識・技能の確実な定着、それらを活用して問題を解決する思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整し粘り強く学習に取り組む態度等の育成が求められる。

その際、教師には、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度、支援の必要性等に応じて、指導方法や教材の提示、学習時間等の柔軟な扱いをする「指導の個別化」が求められる。

#### 個別最適な学びと協働的な学びの実現

個に応じた指導は、子どもの側から見れば「個別最適な学び」である。そこで、教師には、子どもの成長やつまずき、悩みなどを理解し、興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かい指導・支援に努め、子どもが自らの学習状況を把握し、主体的に学習の調整ができるよう促していくことが求められる。

一方、個別最適な学びが孤立したものにならないよう探究的な学習や体験活動を通じ、子ども同士、多様な他者と互いに学び合うことに必要な資質・能

力を育成する「協働的な学び」の充実も重要である。

また、協働的な学びでは集団の中で個が埋没しないよう、個々の子どものよい点や可能性を生かし、異なる考え方の組み合わせで、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。

#### 子どもの伴走者としての教職員の姿

教師は、個に応じた指導を充実するとともに、子どもの学びを支援する伴走者としての能力も身に付けたい。そのためには、指導力を向上させる校内研究による研鑽や、自主的な個人研修が不可欠である。

#### ICTの活用

情報活用能力の育成、オンライン学習の工夫、他校や海外との交流などにICT活用は有効である。特に、子どもが見通しを立てたり、学習状況を把握し新たな学習方法を見つけたり、学び直しや発展的な学習に取り組めるようにすることが必要である。

ICTは、児童生徒へのきめ細かな指導や支援等にも有効であり、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることや少人数指導にも活用したい。

#### 子どもの多様化への対応

個々の子どもの適性・能力・特徴、特別支援を必要とする障害のある児童生徒、日本語指導を必要とする外国人児童生徒等、子どもが多様化している。

教育委員会や関係諸機関と連携して、現状を踏まえた指導・支援を具体的に進める必要がある。

#### 管理職等のリーダーシップ

校長や教頭、ミドルリーダーは、答申の趣旨を踏まえ、新学習指導要領の効果的な実施を目指し、カリキュラム・マネジメントや、外部人材等の協力を得ることなどに、リーダーシップを発揮したい。

(こじま・ひろし=元東京都立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●小・中学校校長 20 人の最初の授業・最後の授業 《2月 24 日発売 予約受付中！》  
今、子どもたちに伝えたい 入学式・卒業式の校長式辞 40 選

学校講話・メッセージ研究会【編】 A5判／176 頁／定価 2,420 円(税込)

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

